

R6 経営方針

協和中学校の校訓

だい し ぎょう じん
「大志行深」

小・中学校、子ども園、そして地域との連携を推進して教育効果を高める。
目標や夢を「大志」とし、人生の修練坂を登ることで自立した人間育成を目指す。

1 教育目標

心ゆたかに 強くゆかしく

心ゆたかに 思いやりの心を育てる

◇人間愛の大切さの体得

◇感動できる心の育成

強く 心と体を鍛える

◇生きぬくたくましさの育成

◇働くことの喜びの体得と意義の理解

ゆかしく 基礎学力の向上を図る

◇自ら学ぶ意欲と態度の育成

◇生徒の個性と能力の伸長

総合的な学力

自立 = 思考・判断・表現、実践
自律 = 自己制御、自己評価、メタ認知
共生 = コミュニケーション、社会参加
役割の遂行



将来の生活へ

精神的自立 生活の自立
社会的・職業的自立
生涯学習 生涯スポーツ
家庭生活の確立と社会との関わり



支えるものとして

大志行深の全校の取組

目標実現のために、苦しさや困難に立ち向かい、打ちかつ体験を重ねさせる。

体験学習の重視

実体験を通して経験を積み、将来を見つめさせ、自立心を育てる。

多様な生徒会活動の充実

家庭・地域と協働することで自己有用感を高め、生きがいを見付けさせる。

2 目指す姿

【目指す生徒像】

- 進んで挨拶ができる生徒
- 思いやりの心をもつ生徒
- 役割に責任をもつ生徒
- 自ら進んで行動する生徒
- 地域と協働できる生徒

【目指す学校像】

- 安心安全な学校
- 明るく笑顔あふれる学校
- 生徒の資質を伸ばす学校
- 生徒の希求に応える学校
- 地域とともにある学校

【目指す教師像】

- 笑顔を大切にする教師
- 生徒の希求を感じる教師
- 生徒から信頼される教師
- 生徒と共に成長する教師
- 多方面と協働できる教師

3 経営の基本

そつたくどうき
啐啄同機

～生徒の主体性と地域・学校の支援が呼応する学園～

(1) 基本的な経営観（目指すゴール）

- ① 生徒：人と関わりながら学び、表現し、協和で生活する喜びとその力の高まりを実感している
- ② 教職員：教職員が、研修に勤しみ、生徒に育成すべき資質・能力を理解し、生徒の希求を汲み取りながら自身の強みを生かした教育活動を展開している
- ③ 学校：組織、地域インフラとして生徒・家庭・地域の信頼を得て、地域とともにある学校づくりにチームとして励み、学校力を高めている
- ④ 保護者：保護者が、子どもの成長を実感し、地域と学校の取組を理解し、信頼が高まっている
- ⑤ 地域：地域が、学校の取組を理解し、地域課題に即した「学校を核とした地域づくり」に向けた意識が高まっている

4 本年度の重点

(1) 豊かな心と体の育成 〈生活力の向上〉

①温かく強い心を育てる

- ・生徒指導を重視した学級経営と部活動経営
- ・生徒の実態に合わせた、心を育てる「特別の教科 道徳」の指導工夫
- ・多様な生徒会活動の推進（協中自治の日、貢献ジャー、あいサーズday）
- ・丁寧な清掃（水拭き、トイレ）による古い校舎への愛護

②健康で逞しい体を育てる

- ・心身健康のため生徒や家庭への働きかけ（感染症対策、養護教諭との連携、生活習慣）
- ・協中スポーツテスト上位者表彰、体力づくりコーナーの設置（体育館入り口）
- ・毎日の修練坂登下校や各部活動（陸上・駅伝）等による体力の向上

③強く生き抜く力を育てる（いじめ・不登校の防止と改善）

- ・日常の観察指導と生活ノートや教育相談による生徒理解
- ・アンケート調査を基にした未然防止と早期発見＝生徒指導の「さしすせそ」を意識
- ・生徒会の「パープルリボン運動」「協中自治の日」による“いじめの根絶”
- ・保護者との面談（年1回以上）による共通理解（会話なくして信頼なし）
- ・「さわやか委員会」を主とした組織対応と専門機関との連携（スペースイオ、SSW）
- ・関係機関との連携による効果的な情報モラル教育の推進（親子講演会の実施）

(2) 確かな学力の向上 〈授業で勝負〉

①基礎・基本の確実な定着

- ・共通実践事項の理解とPDCAサイクルを生かした校内共同研究の充実
- ・TTをはじめとする個に応じた、きめ細かな指導の充実（少人数加配）
- ・全国や県学習状況調査等の結果を活用した指導方法の改善
- ・全職員による一勉ノートのチェックと効果的な家庭学習の工夫
- ・外部人材を活用した学習や活動
- ・教科横断的な教科間の連携（全職員一人一授業）

②「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の実施

- ・学ぶ目的意識と見通しをもつことができる学習課題やめあての設定
- ・教科の枠を越え、授業の中で育む生徒像の明確化
- ・学び合いから自分の考えを深め広めさせる工夫
- ・協中スタイルによる授業規律、共通実践事項等の確立（生徒同士による授業参観）

③学習環境等の整備・充実

- ・小・中連携授業や三中合同連携行事等関係機関との交流を深めるネットワークの充実
- ・タブレット（ICT）、視聴覚教材、学校図書館、公共施設の活用
- ・インクルーシブ教育の理解とユニバーサルデザインの実践
- ・空き教室の有効活用（英語科教室、数学科教室等）

(3) 人間関係形成能力・社会形成能力の向上 〈関わる能力の向上〉

①社会と関わるコミュニケーション能力の向上

- ・グローバル社会で必要とされる資質や能力の育成
- ・地域に根ざしたあいさつ運動の継続
- ・人前や公の場で自主的に発表できる、誰とでも話し合える機会の設定

②協和の未来を支える生徒の育成

- ・ふるさとと関わる主体的な生徒活動の推進（パープルリボンバッチの地域発信）
- ・地域との協働を意識した活動の充実（キャリア教育・特別活動の拡充）
- ・防災意識の高揚を図る防災教育の実践（協和消防分署との連携）

③目指す自己イメージの形成

- ・自己の将来設定を可能にするキャリア教育の充実
- ・社会に関心を持ち、多角的に判断できる人間力の育成
- ・「大志行深」「啐啄同機」への支援と共有

(4) 学校運営面の改善 〈対応力のある学校〉

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進と理解増進

- ・「地域とともにある学校」への転換
- ・地域の声を積極的に生かす学校運営
- ・地域と一体となって進める特色ある学校づくりと地域づくり

②カリキュラムマネジメントの推進

- ・研究主任を中心とした、校内共同研究体制の充実
- ・学習指導要領の改訂に伴う学習指導
- ・学校改善につながる学校評価（保護者・生徒・職員による評価、学校評議員会等）

③働き方改革の推進（多忙化の解消）

- ・教職員間の協力と「一人で抱えない抱えさせない」同僚性の確立
- ・「行事の振り返り」による学校行事の改善と精選
- ・各種休暇のとりやすい職場・サポート体制
- ・「協和中学校部活動方針」の厳守、外部人材活用（部活動指導員、地域C、SC等）
- ・毎月1～4回（期間によって）ノー残業デーの設定、勤務時間状況の一括管理
- ・「働き方改革事例集」を活用した、改革委員会の設置と改革案の提示・検討
- ・学校運営協議会へ教員の業務負担軽減につながる地域人材の活用等を諮問

④不祥事根絶に係る具体的な取組

- ・不祥事防止ハンドブックを活用した職員研修の実施
 - ・全職員で風通しのよい職場環境の構築
- 職員間の日常のコミュニケーションを大事にし、定期・不定期を問わず面談・相談に応需することで不安感やストレスの軽減に努める。